

平成18年 夏季期間中の旅客輸送等の動向について

1. JR（平成18年7月21日～8月20日）

JRグループ6社の夏期間(7月21日～8月20日の31日間)主要50区間の輸送実績は、梅雨明けの遅れにより一部線区で行楽利用が伸びなかったものの、期間全体では3,265万2千人(前年比100.1%)と前年並みで推移した。なお、7月13日に発生した羽越本線(小岩川～あつみ温泉間)の土砂崩壊の影響により、8月8日まで27日間特急などが運休した。

新幹線の輸送実績は、概ね、堅調であった。最も伸びが高かったのは、山形新幹線で前年比6.6%増、次いで秋田新幹線が前年比5.0%増と好調であった。昨年の愛知万博開催による反動減が予想された東海道新幹線は、山陽直通の「のぞみ」を增強したことなどが功を奏し、前年並みで推移した。

また、お盆期間(8月11日～8月20日の10日間)の輸送実績は、大きな輸送障害もなく全国的に概ね好天に恵まれ、各社で前年を上回り、6社合計で前年比5.2%増の1,230万1千人となった。JRグループで最も伸びが高かったのはJR北海道で、前年比11.6%増であった。

JRグループ主要区間における新幹線・特急・急行列車の輸送実績(上下計) (単位:万人)

期 間 会社別 (区間)	H17.7.22(金) ～8.21(日)	H18.7.21(金) ～8.20(日)	前年比 (%)
JR北海道 (4区間計)	108.9	113.7	104.4
JR東日本 (18区間計)	1,319.2	1,328.5	100.7
うち東北新幹線	575.1	587.4	102.1
上越新幹線	307.6	311.0	101.1
長野新幹線	95.2	96.6	101.5
秋田新幹線	24.1	25.3	105.0
山形新幹線	33.6	35.8	106.6
JR東海 (10区間計)	950.1	945.4	99.5
うち東海道新幹線	(注)	884.2	100
JR西日本 (11区間計)	647.8	644.3	99.5
うち山陽新幹線	388.3	387.4	99.8
JR四国 (3区間計)	41.4	41.7	100.7
JR九州 (4区間計)	194.3	191.6	98.6
うち九州新幹線	33.4	31.3	93.7
合 計 (50区間計)	3,261.7	3,265.2	100.1

※ 対前年同曜日比較

※※ 合計値、前年比は四捨五入の関係で合致しない場合がある

※※※ 輸送人数は、各区間の断面輸送量

(注) 前年実績は非公開

お盆期間の特急・急行列車の輸送実績(上下計)

(単位:万人)

期 間 会社別 (区間)	H17.8.12(金) ～8.21(日)	H18.8.11(金) ～8.20(日)	前年比 (%)
JR北海道 (4区間)	37.0	41.3	111.6
JR東日本 (18区間)	466.7	495.5	106.2
JR東海 (10区間)	324.1	335.0	103.4
JR西日本 (11区間)	251.4	265.3	105.5
JR四国 (3区間)	16.0	16.9	105.6
JR九州 (4区間)	74.4	76.1	102.3
合 計 (50区間)	1,169.6	1,230.1	105.2

※ 対前年同曜日比較 (新幹線を含む)

※※ 合計値、前年比は四捨五入の関係で合致しない場合がある

※※※ 輸送人数は、各区間の断面輸送量

2. 国内航空（平成18年8月11日～8月20日）

国内航空のお盆期間(8月11日～8月20日の10日間)の輸送実績は、台風10号の影響により、8月17日～18日九州関係路線を中心に欠航が発生したものの、期間全体では前年を上回り、321万7千人と堅調に推移した。スカイマークエアラインズ及び北海道国際航空は、提供座席数の増加や路線の再編などにより、それぞれ前年比24.6%増、20.9%増と高い伸び率となった。スカイネットアジア航空は、提供座席数の減少に伴い、前年に比べて利用者数が減少したが、座席利用率は前年並みであった。

方面別では、各社ともリゾートブームが続く沖縄方面の伸びが高く、また、観光人気の北海道方面が前年を上回った。日本航空の中国・四国方面が前年比14.1%増と好調であった。

なお、本年2月16日に神戸空港が開港し、航空三社が札幌、仙台、東京、沖縄など7都市に一日28往復便を運航しているほか、3月16日には新北九州空港が開港し、航空三社が東京、名古屋(小牧)、沖縄に一日20往復便を運航している。

国内航空の輸送実績(上下線計)

(単位:千人)

会社別	期 間	H17.8.11(木) ～8.20(土)	H18.8.11(金) ～8.20(日)	前年比 (%)
日本航空(注1)		1,430.0	1,464.9	102.4
全日本空輸		1,513.6	1,523.3	100.6
スカイマークエアラインズ		89.3	111.3	124.6
北海道国際航空		48.4	58.5	120.9
スカイネットアジア航空		45.3	32.0	70.7
スターフライヤー(注2)		—	26.8	—
合 計		3,126.6	3,216.8	102.9

※ 対前年同日比較

※※ 合計値、前年比は端数処理、四捨五入の関係で合致しない場合がある

(注1) 日本航空は、日本航空、JALエクスプレス、日本トランスオーシャン航空、琉球エア・コミューター、日本エア・コミューター、北海道エアシステムの合計値

(注2) スターフライヤーはH18年3月就航

(参考) 日本航空(JALエクスプレスを含む)方面別輸送実績(上下線計)

	北海道	東北・北陸	関 西	中国・四国	九 州	沖 縄
旅客数(千人)	361.2	143.2	115.6	146.0	342.0	193.3
前年比(%)	100.4	95.7	99.2	114.1	101.7	106.3

(参考) 全日本空輸方面別輸送実績(上下線計)

	北海道	東北・北陸	関 西	中国・四国	九 州	沖 縄
旅客数(千人)	365.9	153.3	118.0	226.5	414.7	226.4
前年比(%)	103.2	101.1	98.1	96.4	98.8	105.4

3. 国際航空（平成18年8月11日～8月20日）

国際航空のお盆期間(8月11日～8月20日の10日間)の輸送実績は、景気の好転や旅行需要の高まりなどを背景に、全体で前年比1.3%増の60万2千人と好調であった。エアーニッポンは、新規路線の増加などにより前年に比べて倍増した。

方面別では、日本航空は米大陸線、東南アジア線及び中国線が団体旅客の増加などにより好調であった。全日本空輸はホノルル・グアム線を除く全方面が好調で、特に、アジアリゾート方面が前年比112.3%と大幅に増加した。なお、中国線については、昨年の反日デモの影響に伴う需要減が回復し、両社とも前年を上回った。

国際航空の輸送実績(日本発着ベース)

(単位:千人)

会 社 別	期 間	H17.8.11(木) ～8.20(土)	H18.8.11(金) ～8.20(日)	前年比 (%)
日本航空(注1)		424.3	416.2	98.1
日本アジア航空		39.2	42.8	109.3
全日本空輸(注2)		125.9	132.8	105.5
エアーニッポン		4.5	9.9	219.1
合 計		593.9	601.7	101.3

※ 対前年同日比較

※※ 合計値、前年比は端数処理、四捨五入の関係で合致しない場合がある

(注1) 日本航空は、JALウェイズを含む

(注2) 全日本空輸は、エアジャパンを含む

(参考) 日本航空(JALウェイズを含む)の日本発方面別輸送実績

路 線	ホノルル	米大陸	欧州	東 南 ア ジ ア	オセア ニ ア	グアム・ サイパン	韓 国	中 国
旅客数(千人)	57.6	55.8	45.1	101.4	22.3	12.9	59.4	61.7
前年比(%)	88.6	114.5	88.5	101.4	90.7	41.7	99.8	138.3

(参考) 全日本空輸(エアジャパンを含む)の日本発方面別輸送実績

路 線	北 米	欧州	中 国	ア ジ ア	ホノルル・ グアム
旅客数(千人)	18.2	16.4	43.2	44.6	10.4
前年比(%)	103.1	106.7	105.4	112.3	85.6

4. 高速道路（平成18年8月9日～8月20日）

全国の主な高速道路のお盆時期(8月9日～8月20日の12日間)の利用状況は、日平均で、東日本高速道路株式会社が、前年比1.3%増の154万1,045台、中日本高速道路株式会社が、前年比1.8%増の138万592台、西日本高速道路株式会社が、前年比0.6%増の169万9,371台、全体では、前年比1.2%増の462万1,008台となった。

東日本高速道路株式会社高速道路利用台数(日平均) (台)

区 分	期 間	H17.8.10(水) ～8.21(日)	H18.8.9(水) ～8.20(日)	前年比 (%)
高速道路計		1,520,649	1,541,045	101.3
主 な 道 路	道央自動車道	118,332	117,706	99.5
	東北自動車道	312,898	314,205	100.4
	常磐自動車道	189,642	189,320	99.8
	東関東自動車道	166,674	167,921	100.7
	東京外環自動車道	154,971	159,350	102.8
	関越自動車道	192,066	196,025	102.1
	北陸自動車道(朝日IC ～新潟中央JCT間)	60,192	62,265	103.4

※ 対前年同曜日比較

(出典)東日本高速道路株式会社ホームページより抜粋

中日本高速道路株式会社高速道路利用台数(日平均) (台)

区 分	期 間	H17.8.10(水) ～8.21(日)	H18.8.9(水) ～8.20(日)	前年比 (%)
高速道路計		1,356,261	1,380,592	101.8
主 な 道 路	東名高速道路	454,272	450,315	99.1
	名神高速道路	74,052	75,482	101.9
	中央自動車道	275,295	277,112	100.7
	東名阪自動車道	234,256	238,206	101.7
	北陸自動車道	122,570	127,052	103.7

※ 対前年同曜日比較

(出典)中日本高速道路株式会社ホームページより抜粋

西日本高速道路株式会社高速道路利用台数(日平均)

(台)

期 間		H17.8.10(水) ~8.21(日)	H18.8.9(水) ~8.20(日)	前年比 (%)
区 分				
高速道路計		1,689,389	1,699,371	100.6
主 な 道 路	名神高速道路	197,352	198,467	100.6
	西名阪自動車道	198,431	201,128	101.4
	近畿自動車道	150,837	153,022	101.4
	中国自動車道	157,437	159,663	101.4
	山陽自動車道	181,899	186,652	102.6
	高松自動車道	34,728	36,520	105.2
	松山自動車道	47,627	48,578	102.0
	九州自動車道	239,853	240,732	100.4
長崎自動車道	57,661	57,661	100.0	

※ 対前年同曜日比較

(出典)西日本高速道路株式会社ホームページより抜粋